

ふるさと大使 かわら版

2019年新春号（通巻90号）

＜当会のホームページ＞

<https://www.furusatotaishi.com>

■ 本会のシンボルマークは、大使同士の情報交換及び、その委嘱者との相互交流を主眼に図案化。4つのモチーフからなり、山（緑色／地方・故郷・自然）と矩形（青色／都会・テクノロジー）と円及び輪（黄、橙／人・情報・ネットワーク）を表現。

HEAD LINE

- 【1面】 ふるさと大使全国大会2018
自然・歴史資産の活用を呼び掛け
・内向きに陥らず、横に手を広げよう
- 【2面】 記念講演「地域資源とまちづくり」
自然・歴史の活用から 陣内秀信氏
- 【3面】 同
・「お水取り」と「お水送り」——山下晋彦
- 【4～6面】 パネル討論「地域特性をどう活かすか」
——高橋靖氏、千代松大耕氏、大江和彦氏
- 【7面】 交流・懇親会 歌・踊りと大道芸で華やかに
——三谷啓子
- 【8面】 ご提供いただいた特産品・地酒等
- 【9面】 「天は自ら助くる者を助く」精神でふるさと復興
——佐藤建吉
- 【10面】 「ふれあい酒田」懇親会で酒と余興を堪能
——浅田和幸
- ・アンテナショップを訪ねて
「いわて銀河プラザ」——鈴木克也
- 【11面】 明治150年 京都創生——岡本孝樹
・宇部の「ときわ公園」においてませ
——小西孝蔵
- 【12面】 秋田内陸線に乗り、縄文と山菜を巡る旅
——鈴木克也
・「かんもん北九州ファンクラブ」新年会開催
——本多忠夫
・奉納連歌——山口義夫
- 【13面】 気になる函館のホテルラッシュ
——浅田和幸
・大名庭園サミット熊本大会開催
——本多忠夫
・「韓日中交流のタペ」で与論島をPR
——千波裕美
- 【14面】 「福島県・浜通りの現状と桜を訪ねるツアー」
・新会員紹介
・全国ふるさと大使連絡会議の概要、編集後記他

「ふるさと大使全国大会2018」 自然・歴史資産の活用を呼び掛け

平成30年10月29日、「ふるさと大使全国大会2018」が東京・日暮里の「ホテル・ラングウッド」で開催された。本大会実行委員長の本多忠夫氏の開会宣言に続き、当会の浅田和幸代表が、かつて狭い国土で人口が多い日本が「ウサギ小屋に住む」と言われた例を引き合いに、「人口が減ること自体はさほど悪いことではない。大事なのは暮らしの質で、もう成長神話から脱却する時期。今日は各地の取り組みから町の元気づくりのヒントを得てほしい」と挨拶、平成最後となる「ふるさと大使全国大会」が始まった。

第1部のシンポジウムでは、法政大学特任教授の陣内秀信氏が「地域資源とまちづくり——自然・歴史の活用から」の演題で記念講演。カラスライドでイタリアと日本の事例をふんだんに紹介、交互に比較しながら、自然資産や歴史的建築物など既存のものを活用したりリノベーションしたりすることで新たな可能性を引き出すことができると指摘、自然・歴史資産の積極的な活用を呼び掛けた。

続いて「地域特性をどう活かすか」をテーマに約90分間のパネル討論が行われた。パネリストには茨城県水戸市長の高橋靖氏、大阪府泉佐野市長の千代松大耕氏、島根県海士町長の大江和彦氏を迎え、当会常任理事の平谷英明氏がコーディネーターを務めた。水戸市では、歴史と文化を背景にアニメや映画のロケ地巡りなど新たな取り組みが始まっていること、海士町では「島ごとブランド化」により新たな商品開発や600人を超える移住者を生み出していること、泉佐野市では関西空港を活かして全国47自治体と協定を結んで特産品を販売したり、相互にイベントに参加したりしていることなどが紹介された。こうしたまちづくりの原動力として「危機意識の共有」や「まちを愛する住民の力や市民との協働」などが挙げられた。

第2部の情報交流・懇親会にはご多忙にもかかわらず、講師を務められた陣内特任教授と3人の市長・町長全員が出席され、多くの参加者と交流を広げられた。余興も「招福踊り」や本格的な大道芸のほか、6名の歌手による歌の披露、よさこい踊りと盛りだくさんで、会場が熱気に包まれた。（詳細は2～8面に）



内向きに陥らず、横に手を広げよう

新年おめでとうございます。亥年は勢いのある年とも言われますが、5月には新天皇の誕生とともに新たな時代に入ります。夏には参院選があり、10月には消費税10%への引き上げも予定され、大きな出来事が目白押しです。

世界に目を向けると、米国は来年の大統領選を控えて内向きな政策が強まる一方、英国のEU離脱過程の混乱も続きそうです。この数年で世界は国際協調から自国優先へとシフトし、我が国も日韓、日中、日露いずれをとっても摩擦が強まり、穏やかな気持ちになれません。

けれども、対立・摩擦は結局お互いの消耗に行きつきます。私どもは我がふるさとだけでなく、隣の人のふるさととも大切にしたいと考えています。ふるさと・地域には都市の規模や遠近、自然条件の違いにかかわらず、それぞれの個性があり、良さがあり、それを尊重し、活かしていくことこそお互いのプラスになるからです。

内向きになりがちな昨今、外に目を向け、横に手を広げて地域の元気につなげられるよう、本年も皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

全国ふるさと大使連絡会議 代表 浅田 和幸

ふるさと大使全国大会2018

◆記念講演◆ 地域資源とまちづくり ～自然・歴史の活用から～

法政大学 江戸・東京研究センター 特任教授 陣内秀信氏



私はイタリアの10万人以下の小さな町を色々見て来ました。近年イタリアでは、大都市から中小の町に注目が集まり、産業の中心も中小の町に移ってきました。日本でも似たような傾向が現れてきていますので、その事例と比較しながら紹介します。

まず、1980年頃からのイタリアの中小都市は、自然と歴史を活かして居心地のよいまちづくりを行っています。北イタリアのヴェネト地方のトレヴィーゾは、歩いて15分もあれば端から端まで行ける小さな町ですが、実に居心地の良い町です。

道路は歩行者天国となっており、中心の広場は人々の集まる場となっています。回りの城壁はプロムナードとなっており、堀が巡り、水車がメモリアルとして残されています。古い建物がうまく活かされています。例えば昔の商館は地元の信用金庫が取得しリノベーションされ現代アートのギャラリーとなり、2階はシンポジウム等にも使えます。歴史的な建造物が残されており、昔にタイムスリップしたようでもあります。現代的な建築物もほどよく合って住むのに居心地がよい。

また、サルデーニャの山間の村ではローカル鉄道の駅を再生利用しています。歴史資産を活かしたまちづくり

サルデーニャ
ローカル鉄道駅の再生昔の商館をリノベーションして
現代アートギャラリーに

としては、昔の車庫が地元芸術家のギャラリーとして活用されています。既にあるものを大切に、その新たな可能性をうまく引き出しているのです。

このように中小都市が自然と歴史を活用して、まちづくりする例が、日本でも増えてきました。

埼玉県川越市では、明治時代の蔵が多く残されていますが、それを活用してうまくまちづくりが行われています。街路に面した昭和初期の近代建築の脇から入ると古い住居があり、それを和風のレストランに活用しています。織物工場を利用してファッションの情報発信基地とし、若者に人気の地ともなっています。生産者との共同イベントを開催したりもしています。世界遺産になっ

ている島根県の石見銀山では古い屋敷を宿泊施設や交流サロンにしたり、古民家を再生して新たなファッションを発信している例もあります。歴史的建造物は単に保存するのではなく、現代風にリノベーションし、活用することが必要なのです。

1980年代のイタリアでは歴史都市の再評価と共に田園の再評価が始まりました。アグリトゥリズモ（農業観光）もそのなかから生まれました。北イタリアのヴェネト地方では歴史的な別荘・農場をホテルに転用しています。

トスカーナ・オルチャ渓谷では、田園の普通の風景を世界遺産にすることに成功しました。近隣の小さな5つの自治体が連合して専門家の指導の下に歴史性やストーリーをつけて世界遺産にしたのです。地主の館の前の井戸のある農作業や暮らしのための広場が祝祭の場となりました。一昔前では考えられないことでしたが、大都市中心の現代文明が見直され、地域の田園風景が文化遺産となるようになってきています。

山間部で出会った歴史的
遺産の再生例何でもない田園風景に注目
世界遺産にトスカーナ、オルチャ渓谷

地主のスコット家は今でも農場経営をしながらB&B（朝食付きの宿泊所）を営み、集落の広場に面した農家施設はリノベーションされ、レストランとB&Bに転用されています。

また、1986年頃からは南イタリアで食文化を重視し、ファストフードのアンチテーゼとして「スローフード」の考え方を打ち出しました。もちろん、食材は地元のものを使い、すべて地元のマンマたちの手づくりで、「地産地消」です。まち全体が「おもてなし」の場づくりを進めました。食文化が地域おこしの場づくりにつながっているのです。

このような流れは、日本にも広がっています。山形県の金山町では町の入口で川に木造の橋を架け、灌漑用水に綺麗な石垣が積まれ、美しいタウンスケープを生み出すと共に中心部には、地域特産の杉を使った建築、新町家をつくり、個性ある町並みを形づくっています。古く

て懐かしい風景と新しい建築物がマッチしているのです。

もう1つ、南イタリアには海辺都市の自然・歴史を活用した事例があります。どちらかというと、南イタリアはこれまで取り残されてきましたが、今では「1周遅れのトップランナー」とも考えられるほど蘇っています。南イタリアは地中海世界ならではの豊かな自然に恵まれており、ギリシャやイスラムなどに関連する歴史的遺産も沢山あります。

例えばトラニーには、旧市街の海際に歴史的遺産としてのロマネスクの教会があるのですが、これまでは近代の計画的市街地に人が移り住み、この辺りはスラム化してしまい、観光客もこの教会だけを見てすぐ帰ってしまうという状態でした。ところが15年くらい前から観光のあり方が変わり、個性的なまちとして蘇りました。「スローフードからスローシティへ」という流れとなってきたのです。

「スローフード」がどちらかというと民間が主導なのに対して「スローシティ」は自治体主導という傾向がありますが、いずれも住民や観光客にとってゆったりとしたまちにすると共に本物の料理をつくり、本来の文化資産を活かすということです。地域の人々はそれに誇りをもち、そのことを自慢するのです。

港町としては、最近ではナポリの近くのアマルフィが人気ですが、地形に合わせてダイナミックにつくられた海洋都市の魅力と海産物を使った美味しい食事を楽しむために世界中の人達が大勢訪ねます。この町は最近、日本の美濃市と提携をしましたが、古い建物を活かして宿泊の場をつくり出す点など日本にとっても学ぶところが多いのです。日本からは和紙の提灯づくりの技術を伝え、いろいろ

な交流が行われています。子供たちの交換滞在も行われるようになりました。

海辺の町としては、日本でも最近では瀬戸内海が注目を集めています。広島県の鞆の浦（とものうら）が特に有名ですが、雁木、常夜灯、波戸場、焚場など近世の港の要素をよく残し、趣があります。

また、離島も注目され、香川県の直島など多くの島を連携して実施されている現代アート展を軸にした地域起こしは素晴らしいもので、自然と歴史を芸術と融合させている例です。広島県・生口島（いくちじま）は昔の塩づくりや海上交易の跡があります。当時栄えていたことをしのばせる宝物も多くあります。これらは非常に魅力があり、瀬戸内海は全体として十分世界遺産に値すると思われれます。今はそれぞれがバラバラに地域づくりに取り組んでいますが、これが連携すれば、もっと魅力が増すと思われれます。

最後に、イタリアで生まれた宿泊の形態として、「分散型ホテル」は日本にも参考になると思います。ホテルといえば、受付、宿泊、食事、交流まですべての機能を1カ所で行うものと思われていますが、イタリアでは複数の空き家を再生し、それぞれの機能を町に分散させ、町全体で観光客をもてなすという考え方も広がっております。日本でも東京の谷中で、銭湯も活用してそのようなことを試みようとの動きがあります。

以上見て来たように、イタリアでも日本でも、豊かな自然や歴史、そこに育った文化はそれぞれ個性があり、魅力があります。それに磨きをかけ、新しいものとうまく組み合わせれば、居心地の良いまちとなると思います。

（要約＝常任理事・鈴木克也）

「お水取り」と「お水送り」

若狭おばま御食国大使
山下 晋彦

毎年3月12日に奈良の東大寺二月堂で「お水取り」の行事が行われますが、関西の人々はこの行事が終わると春が到来するという強い思いがあります。

このお水取りに先がけて3月2日に行われる、私の郷里、福井県小浜市の神宮寺の「お水送り」は奈良と若狭が昔から深い関係があった事を物語る歴史的な行事です。

西暦710年、奈良に平城京が造られ、聖武天皇ご在位の752年春に東大寺に於いて国家を挙げての盛大な大仏開眼供養（修二会）が行われました。

この供養の際に二月堂を建立した実忠和尚が日本中の神々を招かれ、行の加護と成就を請われたのですが、若狭の遠敷明神（おにゅうみょうじん）だけが漁に夢中になって遅刻してしまい、そのお詫びとして二月堂の本尊である十一面観音にお供えする「お香水」を送る事を約束し、若狭から送ると言って二月堂の下の大岩の前で祈願すると、その大岩を破って白と黒2羽の鵜が飛び出し、穴の中から泉が湧き出たのです。

その井戸は「若狭井」と名付けられ、その水を汲んで本尊に供える儀式として「お水取り」が行われるようになったのです。

「お水送り」は3月2日、夕闇が迫る神宮寺の回廊から、赤装束の僧が大松明（おおたいまつ）を振り回す達陀（だったん）の行に始まり、境内の大護摩に火が焚かれると炎の祭典は最高潮に達します。

やがて、大護摩から松明にもらい受けた火を手で2km余り上流の鵜の瀬へ向かいますが、ホラ貝の音と共に、山伏姿の行者や白装束の僧侶らを先頭に一般人も含め約3000人もの松明行列が続きます。

鵜の瀬の河原で再び大護摩が焚かれ、住職が送水文と共に御香水を筒から遠敷川に注ぎ込み、流された水は10日間をかけて奈良東大寺二月堂の「若狭井」へ届くと言われ、古来より若狭と奈良は地下で結ばれていると信じられているのです。

パネル討論

～地域特性をどう活かすか～

パネリスト：高橋 靖 氏 水戸市長（茨城県）
千代松大耕 氏 泉佐野市長（大阪府）
大江 和彦 氏 海士町長（島根県）

コーディネーター：平谷 英明
自治大学校 客員教授（高知県観光特使）

司会 新しい視点から地域の自然や歴史を活かした個性的な地域づくりについてお話しいただきましたが、本日のパネリストの首長さんのところも多様な取り組みが行われています。まず各地の取り組みについてお話し下さい。

徳川ミュージアムの刀剣とアニメゲームをリンク

高橋・水戸市長 水戸市は茨城県のほぼ中央にあり、筑波山、那珂川をはじめとする自然に恵まれ、江戸時代には徳川御三家の1つである水戸徳川家の城下町として栄え、歴史的資源も豊富です。2019年は市制施行130年の節目でもあり、国体も開催されます。

水戸の地域資源としては、偕楽園、弘道館が有名ですが、水戸芸術館や徳川ミュージアムもあります。また、水戸がオセロ発祥の地で2016年にはオセロの世界大会が水戸で開催されました。今年は日本の少年が昨年のチャンピオンを破って世界一となりました。

水戸の特産品としては昔から納豆があります。消費金額が全国1位なのか何位なのかをこれほど気にするのは水戸くらいでしょうが、2016年に1位を奪還したのに、2017年は全国3位です。これは水戸市民からすると大変なことなのです。1位になるには納豆をそのまま食べるだけではなく、食材として活用することが必要だと思っています。そのため市民の皆様とともに、納豆の色々な食べ方を研究したり、新しい納豆料理の開発をしたりしています。

また、今問題となっているのは、本市の土産品として有名なわらつと納豆に使用するわらの不足です。そのため企業版ふるさと納税の仕組みを使って、稲わらの生産農家、障害者就労施設、納豆事業者、行政が連携し、わら納豆を持続的に生産できる体制の構築に努めています。

もう1つ、水戸と言えば水戸黄門が有名で、駅前の銅像やツアー、イベントなどでこれを活用させていただいていますが、歴史的には幕末の斉昭（なりあき）が偕楽園や弘道館をつくった事も重要で、水戸徳川家全体の紹介が大切だと思っています。これに関連したトピックスとしては、徳川ミュージアム所蔵の「刀 燭台切光忠」が注目されている点があります。「刀剣乱舞」というゲームやアニメ等



を中心としたコンテンツの中で「刀 燭台切光忠」が擬人化されたキャラクターが爆発的な人気を集めており、来館する若者が大変増えております。

当初は行政としての関わり方について議論もありましたが、市の職員も含めた関係者で関連事業の実施やPRに努めたところ、大きな効果もあり、今では市をあげてキャンペーンをしています。

最後に、地域資源の活用事例を紹介します。1つ目は、役目を終えた浄水場跡地の活用です。建て替えには莫大な予算が必要であり、本市独自のフィルムコミッションをつくり、誘致に注力した結果、様々な映画のロケ地として選ばれるようになり、今話題の「カメラを止めるな!」もここで大半が撮影されています。これを「ロケ地巡り」につなげるなどロケ地誘致を交流人口の獲得に活用していきたいと考えています。

もう1つは、植物公園の中にある薬草園の活用です。市の職員が薬草園を紹介したのがきっかけで、養命酒製造との提携が実現し、今では薬草園の拡張や薬膳料理の開発等、大きなプロジェクトになりつつあります。

全国47自治体と協定結び、空港で特産品販売

千代松・泉佐野市長 タンカー事故をはじめとする本年の台風21号による災害については、皆様から様々な支援や励ましの言葉をいただきました。この場を借りまして厚くお礼を申し上げます。



泉佐野市は、大阪市と和歌山市の境にある面積56.5km²、人口約10万人

の都市です。市制実施は1948年ですから本年は70周年になります。

1994年に開港した関西国際空港によるインバウンドを最大限活用して、世界と日本を結ぶ玄関都市として、21世紀にふさわしい国際都市としての取り組みを行っています。

この空港は海上空港で昼夜かまわず離着陸できるためLCC等による東南アジア諸国からの訪日客が急増しており、2017年の外国人客数は716万人にもなっています。

これをベースに全国47自治体と協定を結び、各地の特産品を空港内で販売しています。それと併せて各地から泉佐野市のイベントへの参加をいただき、市中の4カ所の「まち処」にも各地の特産品を出品していただいています。私共の方からも各地のイベントに参加させていただいています。最近では特産品販売だけではなく、各種の研修やサッカー等のスポーツイベントの共催、それから災害時の相互助け合い協定にまで発展しています。

都会の便利はないが、大切なものはそろそろ

大江・海士町長 日本海、島根半島の沖合約50kmにある隠岐諸島の1つ、中ノ島を海士町（あまちょう）と言ひ、面積は33.4km²、人口約2300人です。境港から船で3時間かかり、海が荒れると欠航にもなるという離島です。



平成大合併が進められる中、海士町は単独町制の道を選びましたが、当時100億円を超す借金を抱え、財政再建団体への転落の危機にありました。

そうした中で「海士町自立促進プラン」を立てました。「守り」の方策としては、まずは町長、議会、職員の給与カット、バス代の値上げ、補助金の自主削減など身を切る改革を行いました。

一方、「攻め」の戦略として一次産業の見直しと若者の活動支援や外部との交流を促進しました。

少子化の中で高校の存続も危うくなっていましたが、3町村の協力のもと「島前高校魅力化プロジェクト」を実施し、若者の力を引き出すことにしました。外部の大学との連携や「地域おこし協力隊」の制度を利用し、新たな商品開発や「島ごとブランド化」に取り組みしました。

具体的なものとしては①サザエのカレー開発②岩ガキのブランド化③冷凍装置への投資④隠岐牛のブランド化⑤塩づくり⑥土づくりから始める米づくり等です。

それらの努力の結果、町の財政も健全化され、外部からの移住者も増えて、今では624人にもなっています。町では「ないものはない」をキャッチフレーズに掲げています。

これはコンビニなど都会にあるような便利なものはないが、命を守るのに大切なものはそろっているというこ

とを意味しています。自立、挑戦、交流、継承、団結などを掲げ、官民一体となってこれからも走り続けます。

司会 今回お招きした首長さんは、皆さん若々しく、それぞれ地域資源を活用して個性的な地域づくりを行っておられます。相当大胆な政策を実行されていると思いますが、そこまで出来たのは何故なのかについてお話し下さい。

千代松・泉佐野市長 1994年開港した関西国際空港は当初、関西のお荷物と言われていましたが、今では716万人もの東アジアを中心とする外国人観光客がこの国際空港を通じて入国し、宿泊しています。これは訪日外国人全体の26%にあたります。以前は180万人でしたから、様変わりと言えます。海上空港で24時間発着可能だという点が大きいと思います。

この観光客を対象に何を提供すれば良いかを考えましたが、泉佐野市には、大した地域資源がない。あることはあるのですが、量が限られている。そこで、他の地方自治体と提携して各地の特産品を販売するのがいいのではないかと思ったのです。今では47の自治体と協定を結び、特産品販売だけではなく、各種のイベントにも協力し合うようになりました。

災害支援協定も実現しています。最初は栃木県の佐野市のように何かの縁のある自治体との協定に限られていたのですが、お陰様で今では多くの自治体との協力が出来るようになりました。お問い合わせは今でも沢山あるのですが、今のところ各都道府県で、1市町村に限らせていただいています。

若者、ヨソ者の力を引き出す

大江・海士町長 原点としては、島を愛する住民が多かったという事ですが、何といても危機意識の共有が重要だと思います。財政再建団体への転落を前にして町長自らが身を切る努力をし、議会議員、職員、それから町民までもが歳出カットの運動に加わってくれました。

もう1つは、若者やヨソ者の力をうまく引き出した事だと思います。地元の中学生や高校生にアイデアを出してもらい、外部の大学生との交流の中で、共同のプロジェクトを立ち上げ、それを政策につなげているのです。今では島の中学生が、東京の大学に行って講義することも行われ、その動きが拡大しています。

ナマコ輸出のための工場建設にあたっては、外部の若者に7000万円もの投資をしましたが、これにはさすがに反対の声があがりました。これも外部の一個人にお金を出したのではなく地域の漁業再生の起爆力になるとの説得に応じてくれました。これは海士町にとっては異例のことでしたが、結果としては、この島が移住者にとって挑戦しやすい島であると認識していただけるようになりました。

高橋・水戸市長 水戸市は歴史と文化の町ですが、何故アニメブームに乗るのかとの批判は相当ありました。しかし、若い人達が大勢やってきて、「刀 燭台切光忠」に熱中している姿を素直に見ると、これが人を呼べるコンテンツであることがわかります。これがまちを活気づけているし、アニメや映画のロケ地巡りなどによる波及効果も大きいのです。このことを多くの市民にも丁寧に説明し、理解してもらう努力をする必要があると思います。

もう1つ、この種のプロジェクトを成功させるにはJRやゲームメーカー、その他関係者のコラボが大変重要な事がわかりました。

司会 最後に、各首長さんから他の自治体やふるさとと関係者へのメッセージをお願いします。

市民力を信じ、市民と知恵を出し合う

高橋・水戸市長 例えば、茨城県はメロンの日本一の産地ですが、このことをテーマにしたランニングイベントが水戸市で開催されています。この企画・運営は全て市民の力によるものです。

行政としては「市民力」を信じ、市民のアイデアを承認することが重要です。これまではどちらかというと、行政側が壁を作っていましたが、その壁を取り払い承認することで、そのイベントがオフィシャル化し活性化するのは。市民との協働で知恵を出して思考力の高い町にしていくことが大切だと思っています。

財政健全化へふるさと納税活用

千代松・泉佐野市長 関空に関連する整備やその後のバブル崩壊のため泉佐野市も厳しい財政危機に陥り、私が市長になった時には536億円の財政健全化の課題がありました。そのため厳しい歳出カットの方針を立てて、実行してきました。16%の歳出を削減しましたが、市民負担を増やすわけにはいかないので、後は税外収入を増やすしかないということで市の名前を売り出す「ネーミングライツ」を取り入れたり、様々な広告料をいただいたり企業協力をお願いをしました。

ちょうどその頃ふるさと納税制度がスタートしましたので、積極的に利用することにしました。その謝礼として何がいいのかを考えましたが、泉佐野市には目立った特産品が少ない。全国の自治体との特産品相互協定もあるのでそれを納税の謝礼に使ってはどうかということになりました。私共としては全国各地の特産品販売のお手伝いをするという気持ちから始めたものです。これについては総務省から批判をいただき、職員の間にも「これでいいのか」との声もありますが、職員が追い詰められてアイデアを出した結果です。お陰で納税額は135億円と全国1位になりました。

今では財政に余裕も出来てきましたが、今でも公用車



の車体広告は載せていて、苦しかった時のことを忘れないようにすると同時に、その時に協力していただいた感謝の気持ちを持ち続けています。

大江・海士町長 何事をするにも「本気度」が試されると思います。私たちの町は離島ですが、「危機意識の共有」のため、町長はじめ議員や職員が身を切る努力をし、それを町民も認めてくれたのだと思います。今は、個々の商品の開発だけでなく、「島全体のブランド化」に本気で取り組んでいます。

司会 ありがとうございます。少し時間がありますので会場からご質問があればお受けします。

会場 ブランド総合研究所の調査で茨城県は6年連続で最下位になりましたが、水戸市長としてはこれについてどうお考えですか。

高橋・水戸市長 調査方法自体への問題提起や、順位をへたに上がるより最下位の方が話題性があるとの意見もありますが、私はこの順位にもこだわりたいと思っています。大切なことは、地域の人々が「お国自慢」を大いに情報発信することだと思います。

会場 国や中央官庁との関係については、どのようにお考えになっていますか。

大江海士町長 自治体の合併押しつけは困りますが、政策の実施にあたっては「地域おこし協力隊」をはじめ、国の支援が不可欠です。

千代松・泉佐野市長 関空の建設は国家事業ですし、その運営にあたっては国の関与が大きいですが、全国各地との協力プロジェクト等については全て自立して行っています。

高橋・水戸市長 知恵やアイデアは全て自前で行っていますが、政策実施にあたっては国のお世話になっています。

司会 各自治体とも、自主的な立場を堅持した上で、国とうまく付き合っておられると思います。本日はどうも有難うございました。

(要約＝鈴木克也)

交流・懇親会 歌・踊りと大道芸で華やかに

第2部の情報交流・懇親会は午後7時から丹頂の間に場所を移し、賑やかに楽しく催されました。陣内教授による挨拶に続き、当会顧問の山口義夫氏の発声により大きな声で「カンパ〜イ!」と会場が盛り上がりしました。

全国から提供していただいた特産品とポスターが壁とテーブルいっぱいディスプレイされ、参加者の興味と関心が集まっていた。

恒例の初参加者紹介が行われ、ステージパフォーマンスが進んでいく中、華やかさを更に増しながら余興が始まりました。成田家笑仙さんの「ばか面招福踊り」や筑波大大学院卒のプロ大道芸人「KAYA」さんの大道芸には一同やんやの喝采。この後、出雲観光大使HANZOさんの新曲「人生の挽歌」、尾野玲子さんの「愛の賛歌」と歌唱が続き、次いで高知県観光

特使・扇谷ちさとさんの指導のもと、全員が鳴子を持って「よさこい踊り」を踊った。また池田さなえさん・上野さゆりさん・美地さんの歌が披露され、途切れることのない豪華なステージに。最後は千波裕美さんの先導で「ふるさと音頭」を歌い、中締めへと移りました。当会副代表の鴨川キヨ氏の発声で1本締めとなり、参加者の気持ちと空気がひとつになったところでお開きとなりました。

今回は協力団体をはじめ個人からも多くの特産品をご提供いただいたため、各テーブルで地酒などをたっぷりと試飲を楽しめたほか、お帰りの際にお土産として多くお持ち帰りいただきました。改めて感謝申し上げます。

お忙しい中、全国からお集まりいただいた参加者の方々の、それぞれのふるさとにける熱き思い。ふるさとを元気にするという目的を共有する会員のみなさんとの出会いと、新たな絆づくりの輪が広がっていくことを改めて願うところです。

今回の参加者は100人を切る少なさでしたが、この熱気を受け、次回は新たな元号での「ふるさと大使全国大会」への期待をしっかりと受け止めました。今後とも多くの皆さんの参加と、新しい方への声掛けをしていただきますようお願いいたします。
(理事 三谷 啓子)



ご提供いただいた各地の特産品・地酒等

ふるさと大使と委嘱団体の方々からふるさとの特産品・地酒・焼酎・ワイン等をご提供いただき、ふるさとと特産品のPRをしていただきました。特産品は展示後、懇親会で試飲・試食とふるさと自慢に供し、残りをお土産としてお持ち帰りいただきました。ご協力に感謝申し上げます。下表はその目録です。ご当地の特産品をご愛顧いただければ幸いです。

提供者(大使制度名称)	特産品名称・数量	提供者(大使制度名称)	特産品名称・数量
北海道 ニセコ町 (ニセコ町観光大使)	ニセコビール3種類（5本セット）	山形県 庄内みどり農協 (鴨川氏紹介)	米（300g）100袋
北海道 函館市 (はこだて観光大使)	はこだてワイン赤3本、白3本	茨城県 水戸市 (水戸大使)	「百年梅酒」（720ml）1本、「サバデシュ」（720ml）1本、「サバ缶」3缶。「オセロチョコ」（16枚入り）10箱
青森県弘前市 岩木山観光協会 (岩木山ふるさと大使)	タムラシードル（500ml）14本、特別純米吟醸酒「華一風」6本、アオレンのリンゴジュース「希望の雫」（1ℓ）2本、造り酒屋のりんご酒20本、にがり酒「弘前城」（720ml）3本	茨城県 大洗町 (大洗ふるさと大使)	いも焼酎「大洗」720ml 6本
秋田県 美郷町 (美郷町ふるさと観光大使)	日本酒「春霞 純米酒」（300ml）12本、仁手古サイダー 24本	長野県 箕輪町 (箕輪町ふるさと大使)	赤そば焼酎（720ml）5本
秋田県 にかほ市 (にかほ市ふるさと宣伝大使)	日本酒（300ml）：潟の松風山廃本醸造、飛良泉山廃純米酒、飛良泉冷酒 各5本（計15本）	大阪府 泉佐野市 (泉佐野市観光大使、泉佐野市スポーツ大使)	「泉州タオル」100本
山形県 (やまがた特命・つや姫大使)	米「つや姫」（2合）30袋	島根県 海士町	清酒「承久の宴（720ml入）」12本
山形県 酒田市 (酒田ふるさと観光大使)	菊勇「出羽の里三十六人衆 純酒」、初孫「伝承生酛」、初孫「出羽の里 生酛純米酒」、清泉川「酒田舞娘 純米吟醸」、上喜元「さかた節 純米吟醸」、麓井「本辛圓 生酛純米酒」、松山酒造「秘めごと 純米吟醸」、楯の川「凌牙 純米大吟醸」各（720ml）1本。酒田せんべい2箱、ORANDAHARMONY 2箱、魅っくらラスク2箱、ふうふる2箱、ふなはこび2箱、酒田湊・北前饅頭2箱、跳ねっこ2箱	福岡県 北九州市 (北九州市ひまわり大使)	「猿喰1757」生酒1升、「天心純米酒 火入れ」1升
		与論島観光協会 (与論パナウル観光大使)	黒糖焼酎「島有泉」一升瓶3本
		三浦喜代治氏 (美郷町ふるさと大使)	さつまいも（紅あずま）20kg
		伊藤美智子氏 (ムゲンシステム株)	西堀酒造「愛米魅」ゆず酒（栃木県小山市）720ml 2本
		茅原裕二氏 (弁理士)	純米吟醸「金婚 ひやおろし」（東京都東村山市）1升
		大澤幸一氏 (八丈島観光大使)	蔵元4社（八丈興発、檜立酒造、八丈島酒造、坂下酒造）の本格焼酎6種類（720ml）24本、極楽鳥花、ソテツ



「天は自ら助くる者を助く」精神でふるさと復権

佐藤 建吉 (一社) 洸楓座 代表理事

各人には、「ふるさと」がある。地方出身の人、東京在住の人、海外で生まれ育った人にも、「ふるさと」がある。小さい時から親しみ馴染んだ愛着の地、「ふるさと」がある。そのなかで、地方の「ふるさと」が、いま疲弊し寂れ活力をなくしている。それは時流であり、仕方のないことと、諦めている人が多い。が、そうしてはならない。地方にある「ふるさと」に愛着を持ち、誇りを持たないと、日本の地方は消滅してしまう。「消滅都市」の予測に甘んじることはできない。

いまから、ほぼ150年前、1867年の大政奉還の翌年、明治がスタートした。その直前1866年に、昌平坂学問所で学んだ中村正直(1832-1891)は留学生を連れて渡英し、サミュエル・スマイルズが著した“Self Help”を携え帰国した。1871年、それを漢文風に翻訳し『西国立志編』として出版した。その本は、福沢諭吉の『学問ノススメ』とともにベストセラーになったという。

2002年、同じ“Self Help”を科学月刊誌『ニュートン』の編集者であった竹内均氏が翻訳し、現代文で『自助論』として出版した。私は、この正月、それを読み返した。疲弊し対処に悩む地方（田舎）が活力を見出す処世術があるのではと考えたからである。『自助論』には、当時の英国だけでなく世界で名を成した多くの人物とその背景が描かれている。スマイルズがとりあげた人物には意図があった。決して富貴な生まれではなく、むしろ不遇な環境で育ち、もしくは一介

の家庭の出身で大成した人物ばかりを対象とした。

勤勉・儉約・節制・誠実などの美德を実践し、無心に修養し、自助に努めること、を繰り返して述べている。

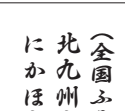
最高の「教育」は日々の生活と仕事の中にある。苦難が人間を立ち上がらせる。逆境の中でこそ若芽は強く伸びる。道なくば道を造る。回り道の旅が真の喜びをもたらす。逆境を脱する四つの美德。自分から病気になった人間を治す薬はない。地道な努力が最後に勝つ。

ニュートンは英・リンカンシャー州の小さな農家の息子であった。学校の成績は下から2番目だった。天才のニュートンですら、「目の前には手も触れられていない真理の大海原が横たわっているが、私はその浜辺で貝がらを拾い集めているにすぎない」と、不断に努力する意思を伝えている。

結びに、アメリカのベンジャミン・フランクリンの言葉を今回の話題に合わせ(➡に)修正し、紹介しよう。

「いったいそれが（⇒田舎が）何の役に立つのか？」とのあざ笑いに、フランクリンは「子供が何の役に立つのかとおっしゃるのですか？いまは子供（⇒疲弊）でも、やがて立派な大人（⇒繁栄）になるかもしれないではありませんか！」と切り返した。

「天は自ら助くる者を助く」の精神こそが、地方の「ふるさと」の復権を可能にする。ふるさと大使はその役割で、本会議はその使命を担わなければならない。

 新年明けまして おめでとうございます	企業組合 エコ八出版 代表 鈴木 克也 神奈川県鎌倉市浄明寺4-18-11 ☎090・2547・5083 （はこだて観光大使）	△ゲンシステム株式会社 代表取締役 伊藤 彰 東京都中央区日本橋箱崎町36-3 N8006 ☎(03) 5640・1422 FAX (03) 5640・1433 （八幡平ふるさと大使）	税理士法人共生会計 代表社員 山口 義夫 東京都新宿区新宿2-9-23 SVAX新宿B館4階 ☎(03) 3351・1741 FAX (03) 3351・1742 （全国ふるさと大使連絡会議顧問） 北九州市ひまわり大使・ にかほ市ふるさと宣伝大使
はこだて観光大使 浅田 和幸 （全国ふるさと大使連絡会議 代表） ふれあい酒田 相談役 鴨川 キヨ （酒田ふるさと観光大使） 高知県観光特使 小山 勝 （株式会社 住まいの研究所取締役） 美郷町ふるさと大使 三浦 喜代治	皆様 明けまして おめでとうございます。 年末に、かわら版に賀詞広告を掲載してはどうかというご提案があり、皆様にご案内する時間がなかったため、役員で希望を募ったところ、右記の方々からご賛同いただきました。 今回は試験的なものですが、今後はスタイルや料金等を検討・整備して、皆様にご案内させていただきます。		

「ふれあい酒田」 懇親会で酒と余興を堪能

代表 浅田和幸

昨年12月2日、首都圏在住の山形県酒田市出身者の親睦団体「ふれあい酒田」の総会・懇親会に出席した。当会副代表の鴨川キヨさんが相談役を務める団体だ。

会場は東京都北区の複合文化施設「北とぴあ」。正午から総会の開会と同時に津軽三味線の演奏が始まった。酒田市出身で津軽三味線の第一人者の岡田修氏によるもので、力強い演奏やオリジナルの歌も交えて数曲が披露され、議事が始まる前から会場が酔いしれた。

この催しは毎年12月に開催され、今回が21回目。北区と酒田市が姉妹都市である縁でこの施設を会場にしており、区長以下多くの幹部も出席される。ユニークなのは同館の玄関前広場を使って「ふれあい酒田デー」と銘打った交流イベントを開催していること。同市の物産品販売や郷土料理の「いも煮」の提供、クイズ、歌や踊りなどが午前中から午後3時まで催され、近隣住民が楽しめるようにしている。

肝心の懇親会は1時ごろから開始。地元酒蔵の「初孫」などを味わいながら歓談が進んだ。とっておきが世話人さんた

ちの手作りの「いも煮」の提供。会場の計らいで調理をできるようにしているそうで、「これを楽しみに来る」という参加者も多いという。

この日の参加者は200人に上り、にぎやかな懇親が続く中、桜井けいさんの歌謡ショーや、酒田市の日本最高齢のパーティーを描いた映画「YUKIGUNI」と、同市出身の佐藤広一監督が地元の映画館の証言集をドキュメンタリーに仕立てた「世界一といわれた映画館」が紹介された。また特産品が当たる抽選会も行われ、大いに盛り上がり、閉会後は全員が「初孫」や米、せんべいなどでずっしりと重い土産袋を持ち帰った。



アンテナショップを訪ねて いわて銀河プラザ

東京都中央区銀座5丁目15-1 ☎03-3524-8282

東京・東銀座、歌舞伎座の前に岩手県のアンテナショップ「いわて銀河プラザ」がある。他のアンテナショップと少し離れたところにあるため、それらとの相乗効果という点から見ると不利であるが、アンテナショップの歴史は古い。当店は平成10年に開設されたものだが、その前の有楽町店を合わせるとアンテナショップの草分けとも言える長い歴史を持つ。

施設にはアンテナショップのほか、総合インフォメーション、イベントコーナー、ビジネスサポートセンター、Uターンセンターを含めて、岩手県の情報拠点ともなっている。

アンテナショップの運営は、第3セクターである岩手県産株式会社に任されており、別部門として、物産の間屋機能も果たしている。

ショップは約300㎡の広くて四角いスペースで、300品目の豊富な品揃えとなっている。購入顧客数は年間約25万人、来店顧客数は1日1500人～2000人位で、それほど多くないが、販売金額では全国10位以内に入っている。

このショップの最大の特徴は、岩手県物産の間屋機能と併営していることで、地元メーカーとの連携もあり、ショップ販売とは別に物産開発の相談や販売拡大の拠点機能を果たしているということである。

売れ筋の1位は切り落としのショルダーベーコンで、これはメーカー、問屋、ショップで共同開発した先進事例である。震災後開発されたÇAVA缶もビッグ商品に育ってきた。ÇAVAは仏語で「元気」という意味を持っているので、岩手からの情報発信としてもふさわしいと思われる。また、岩手の3大麺と呼ばれるわんこそば、じゃじゃ麺（肉味噌入りう

どん）、冷麺（キムチと牛スープ入り）は人気が高い。

岩手県は、四国全体がスッポリ入るほど広い面積があるので、海の幸、森の幸も豊富である。三陸海岸のワカメ、こんぶ、ウニ、サンマ、鮭などの海産品も豊富である。去年は、生ウニを牛乳瓶に入れて販売した商品が大ヒットした。山菜も豊富で、5月～6月に出回る西ワラビは太めで粘りもあって人気だし、タラの芽、フキ、行者ニンニク等も次々と店内を賑わす。

ショップは「地産地消スーパー」的にも利用されているので、出来るだけ素材の良さをアピールしながら、新たな商品づくりにも努力している。

牛や豚などの肉類、納豆や豆腐類、また浅漬等も安定した売れ行きである。小岩井のソフトクリーム、南部せんべい、銘菓かもめの玉子、濃厚なチーズケーキなども人気である。

この店では岩手の伝統工芸品も販売されており、特に南部鉄器や風鈴などは、外国人のお土産品としてよく売れている。また、岩手県は漆の産地であり、漆器類も根強い人気がある。

以上のように、地域の商品を開発し、市場の動向を見ながら売れ筋商品を見つけ、デザインなども工夫しながら、地域商品を育てていくという本来のアンテナショップ機能を果たしている例として注目に値すると思われる。

（常任理事 鈴木克也）



いわて銀河プラザ 長澤由美子店長

明治150年 京都創生

～挑戦の伝統、次なる未来へ～

平成30年は、明治維新、そして京都府が設置されてから150年という節目の年でした。京都は、平安遷都から明治維新に至るまで我が国の首都として中心的な役割を担ってきましたが、明治元年の東京奠都により人口の約3分の1が減少し、産業が急激に衰退するなど、かつてない危機に直面しました。

こうした苦難の時代にあっても、京都の先人たちは、将来を見据えた未来への投資に力を注ぎ、町衆の手による番組小学校、日本初となる公立女学校、京都盲啞院の創設や、京都帝国大学の誘致などの人づくり、西陣へのジャカード織機の導入や、理化学研究や教育をリードした舎密局の開設などの産業づくりを進めました。

明治に生きた京都の先人たちの先見性と思い切った取り組みがあったからこそ、京都は、貴重な文化芸術や伝統を継承しながら、数多くのノーベル賞受賞者を輩出する「大学のまち」、伝統産業と最先端技術が共存する「ものづくり産業のまち」として、今日の地位を築いてきたと思います。

今、我々は、これまで経験したことのない人口減少社会、超高齢社会や、想定を超える自然災害の発生など、様々な課題に直面しています。今こそ、京都の先人たちの足跡を振り返り、改めて「京都の強み」を再認識するとともに、オール京都体制で、これからの京都の発展に向けて歩みを進めていくことが重要です。こうした思いから、京都府では平成30年度を「明治150年 京都創生」の年と位置付け、年度を通して様々な取組を実施しています。

開庁記念式典や、京都府庁旧本館「観芸祭」、「あすのKyoto・地域創生フェスタ」、「京都府環境フェスティバル」などでは、京都府の150年を振り返る企画展示等を、また、平成30年10月6日には、メインイベントとして「明治150年京都創生フェスティバル」を実施しました。この催しでは、京都の4つの大学（京都工芸繊維大学、京都薬科大学、京都府立大学、京都府立医科大学）の連携により、大学の研究活動の紹介や小中高生向けの体験教室、企画展示等を行い、次代を担う若者たちにも多く参加いただきました。また、屋外には「にぎわい文化交流ゾーン」を展開し、京都の老舗料亭

の出店、もうひとつの京都（海の京都・森の京都・お茶の京都、竹の里・乙訓）の特産品ブースや宇治茶BARなど、府内各地の京都の魅力を感じただけのものとなりました。

記念式典では、京舞井上流 五世家元・井上八千代氏による祝舞に続き、株式会社島津製作所代表取締役社長・上田輝久氏による基調講演、西脇隆俊・京都府知事も参加したパネルディスカッションを行い、産業、文化、産学連携等の様々な観点から、多様なイノベーションを生んできた京都の土壌について再考し、産業都市としての京都の未来像について議論を交わしました。

また、「大学のまち」、「ものづくり産業のまち」を代表する大学、企業においても趣旨に御賛同いただき、年間を通じて、明治150年をテーマとしたシンポジウムや、企画展示、イベントなどを府内各地で開催していただき、特設ポータルサイトを通じて、幅広く情報発信を行っています。

なお、この3月にかけても、映画、映像、アニメーションやゲーム、インタラクティブ作品の分野で将来伸びゆく若手クリエイターを表彰することにより、デジタルアミューズメント作品制作を奨励し、京都から世界に若手コンテンツクリエイターを発信する「京都デジタルアミューズメントアワード」、古代には御食国と呼ばれた淡路・若狭・志摩の3地域の食材に支えられ、明治に始まる西洋の食文化との切磋琢磨を経て発展してきた「和食文化」の魅力を味わい体感できる「御食国×京都 和食の祭典」などを予定しています。

平成30年度末まで、先人たちの挑戦の伝統を振り返りながら、未来に向かって新しい人づくりと京都の魅力をさらに高める取り組みを実施しますので、引き続き「明治150年 京都創生」にご注目ください。

（京都府政策企画部 企画参事 岡本孝樹）



明治150年京都創生

（明治期に建設され、官公庁で現役最古の建物である京都府庁旧本館。そのシルエットを「明治150」の文字で構成したロゴ。）

宇部の「ときわ公園」においでませ

宇部市ふるさと大使 小西 孝蔵

宇部市は山口県の南西部にあり、瀬戸内海に面し、気候は温暖で雨が少なく、瀬戸内式気候です。

なお山陽本線及び宇部線が東西に走り、山陽自動車道が市の中央部を走り、宇部空港や宇部港も市街地の近くにあり、足の便も良いです。

宇部市は明治以降、炭鉱の町として栄え、戦後は近代的工業都市として発展するも、昭和30年代、煤煙、煤燼の公害問題を起こしました。そこで市民運動として“緑化運動”や“花いっぱい運動”、“彫刻で飾る運動”が広がり、緑と花と彫刻

のまちとして成長しました。

市には「ときわ公園」という自然を体感するテーマパークとしてアートに彩られた総合公園があります。この公園は①～⑧に認定されています。

- ①国指定登録記念物（名勝地）
- ②美しい日本の歩きたくなるみち500選
- ③世界かんがい施設遺産（常盤湖）
- ④「21世紀に残したい日本の風景」（総合公園1位）
- ⑤「日本の都市公園100選」
- ⑥「池坊花道100選」（ときわ公園しょうぶ苑）
- ⑦さくら名所100選
- ⑧「新日本歩く道 紀行文化の道100選」（常盤湖周遊園路緑と花と彫刻の道）

おいでませ、待ちちょるけんね。



～秋田内陸線に乗り、 縄文と山菜を巡る旅～

はこだて観光大使 鈴木 克也

2018年11月17・18日、秋田内陸線に乗り、縄文と山菜を巡る旅に参加してきた。東京でふるさと応援活動を行っている私たちと地方で地域活性化の活動をしている人達の良い交流の機会となった。

秋田内陸線は角館（かくのだて）から鷹巣（たかのす）までの94km、29駅のローカル線である。全国にある多くのローカル線と同じように人口減少とモータリゼーションの影響で経営が苦しくなり、その存続が危うくなっていたが、住民や関係者の努力で、今では蘇り、ローカル線復興のモデルともなっている。

今後のあり方を含めてポイントを整理しておく。

- ①ローカル線の問題は単なる鉄道経営問題ではなく、沿線の地域問題である。秋田内陸線の場合、沿線には自然と歴史の地域資源が豊かなので、それを「里山ミュージアム」として位置づけ、情報発信することが重要である。
- ②この地域の個性の1つとして「笑顔でのおもてなし」がよく似合っている。内陸線の駅名に「笑内（おかしなない）」があり、縄文の伊勢堂岱遺跡には「笑う岩偶」が展示されている。秋田内陸線も「スマイル・レール」をキャッチ



フレーズにし、笑顔のもてなしが素晴らしい。

- ③地域には「マタギの里」があり、縄文時代から続く里山の狩猟文化の面影が残っている。温泉宿で熊鍋や鹿鍋と川魚・山菜料理がたっぷりと出てくるのも嬉しい。



- ④この地域の特産品「秋田杉」をどのように活用するかは大きな課題である。その象徴としてウッドアート（チェーンソーアート）があちこちに見られる。この地域ではチェーンソーアートの全国大会が催され、その作品がまちを飾っているのである。これにもっと物語性が付与されれば魅力的な絵になる。
- ⑤この地域は山菜の宝庫である。それをどのように収集し、保存・加工し、全国販売に乗せていくのは、これからの課題である。これを「山ぶどうの会」として組織している。この動きも出ている。

これらの自然と歴史を活かした地域づくりの旗手としてローカル線が大きな役割を果たすことが期待される。

そこでこれをテーマにして地域の情報発信を行うため私が営む「エコハ出版」では『里山ミュージアム～秋田内陸線をモデルに～』の発行を準備している。これを当地を訪れる人の地域案内の書としてもらおうと共に、これから推進される予定の「全国ローカル線サミット」の問題提起の書にしたいと考えている。

なお、この内容は1月10日（木）、東京・中央区の環境情報センター研修室で開いた当会の「情報交流・研究会」で『ローカル線を軸としたまちづくり』のテーマで披露した。



かんもん北九州ファンクラブ 新年会開催

平成31年1月12日12時半から浅草のアサヒグループ本社ビルの横に位置している屋上にオブジェのあるフラムドールビルのスーパードライホール2階で本会の新年会が開催された。因みに本会は全国ふるさと大使連絡会議の代表を務めた故杉原健児さんが代表であった団体です。当時はふるさと大使連絡会議の主催する会には大勢の参加者があったが、その後参加者が少なくなっている。

この日の参加者は40名で、ふるさと大使連絡会議からは

私の他に山口義夫相談役ご夫妻が参加された。12時半に開会宣言が行われ、代表者の挨拶に引き続き下関市と北九州市の東京事務所所長の挨拶がなされ、恒例の乾杯が始まった。

和気藹々の懇談の後、参加者全員で1分間スピーチが行われた。席上1月25日に行われる全国ふるさと大使連絡会議の新年会があるので是非ご参加願いたいと私から皆様に参加していただくよう呼び掛けた。その後ジャンケンをして勝った人に下関市や北九州市のカレンダーやお酒がお土産として配られた。私は下関のカレンダーをゲットできた。定刻の2時半過ぎに楽しい一時を過ごして閉会となり、三々五々浅草に散っていった。

本多 忠夫（副代表）

奉納連歌

北九州市ひまわり大使 山口義夫

賦 玉 何

- 一 梅が香や千代百年の松の風
- 二 光にたかき春の御舎
- 三 揚ひばり鳴き立つ空の賑はひて
- 四 しほ千の浜に人揃ひつつ
- 五 水尾ながく船のはなるる岩のいろ
- 六 疾く雲行きて夜はさやけし
- 七 すすき野は隈もなきまで月清く
- 八 秋ひえびえと唐土の夢

裕雄
季嗣
誠三
孝子
弘前
朱美
幸子
好古

連歌は、宗匠と数人の連衆（参加者）が車座になって五七五、七七、五七五、七七・・・と季（春夏秋冬）と季のない雑の句が式目（連歌のルール）に従って静かに歌の舞台が変わってゆき、最後にめでたい春の挙句で終わります。これは、世吉連歌44句の冒頭の8句です。京都北野天満宮の千百年大満燈祭において連歌師（帝塚山大学名誉教授）鶴崎裕雄宗匠とその連衆による法楽連歌です。この連歌が満了（完結）した段階で神前に参加者全員が集まり、連歌を宗匠が読み上げて奉納し、直会が行われます。優雅な歌の遊びです。

気になる函館のホテルラッシュ

はこだて観光大使 浅田 和幸



昨年、2年ぶりに函館を訪ねた。お世話になった市のOBとの久しぶりの再会や旧友との酒宴を楽しんだが、気になることがあった。まちなかを散策すると、函館駅前から松風町に至る繁華街、駅前・大門地区の空き地が目立つ。かつて華やかなりし頃に徘徊した店やビルの歯抜け状態が以前よりさらに進行していて、昨今の観光客増とのギャップがどうも理解しにくい。

そこで聞いて驚いたのが駅前地区で相次ぐホテル計画だ。今年5月に赤レンガ倉庫群のベイエリア地区に15階建てのホテル「センチュリーマリーナ函館」(286室)がオープンする。屋上には温泉露天風呂も備える都市型リゾートホテルだ。この夏には大門地区に「ユニゾインエクスプレス函館駅前」(仮称=277室)がオープンするほか、今年中に駅前地区で2軒のホテルが開業。今年11月には朝市のそばに「東急ステイ函館朝市」が着工するなど、駅前地区だけで7カ所のホテル計画が進んでいるという。湯の川温泉地区などでも計画があると言われ、この2、3年で一気に2000室ほどが増えることになる。

市内のホテル・旅館は昨年3月末で188軒、約8500室で、3年前に比べ20軒、400室以上増加した。旅館が廃業のため減少

しているが、ホテルは5920室と600室も増加しており、これがさらに加速する。

ホテルの充実は喜ばしいことだが、これほど急激に増えても大丈夫なのかと、やや心配にもなる。北海道新幹線の開業効果で16年度の観光入込客は561万人と過去最高を記録したが、17年度は524万人に減少している。ただ、海外からの客数は過去最高を更新しており、今後も伸びるとの期待があるのだろう。

確かに、市内の観光スポットでは中国人観光客の姿が目についた。数年前に比べ、大勢のグループではなく、小カップルや数人のグループが目立ち、旅行の質の変化も見受けられる。

ただ、函館のみならず北海道は冬場の観光客の減少が大きな課題で、旅行商品のダンピング合戦の場ともなっている。東京から飛行機の往復で1～2泊の旅行が2万円を切る例もある。これでホテル・旅館にどれだけの利益が出るだろうか。利用者にはありがたくても、過熱すれば事業者の廃業が広がり、街の荒廃を生みかねない。

遠くからの応援団の一員としては、まちの魅力をさらに高め、多くの人が訪れてくれることを願うしかないのだが・・・。

大名庭園サミット 熊本大会開催

水戸大使 本多忠夫

平成30年11月12日、13日水前寺公園のある熊本市で開催されました。本会は大名庭園民間交流協議会が主催するもので、10の民間団体が持ち回り制で年に1回開催しているものです。

東京からは私が所属しているNPO法人小石川後楽園庭園保存会が参加しました。参加者は東京からは6名と少なかったが、大会は200名を超え盛大に開催されました。

本会は10の大名庭園を愛し守って行こうという民間団体がそろって当該大名庭園を世界遺産として登録することを目

指しているものです。今回で12回目です。本来、平成29年に熊本で行う事となっていたが地震の影響もあり1年延期してなされました。熊本城の復興現場にも行きましたが、近くには立ち入る事は出来ませんでした。ただ、遠くから眺めるしかありませんでしたが、大がかりな修理が行われている状況がよく見えました。

大会では「世界遺産実現に向けて」をテーマとして基調講演では国交省の観光庁の英課長から「大名庭園と観光の関わりについて」と題してお話し頂き、次いでパネルディスカッションが行われました。世界遺産登録は確かにハードルが高く今日明日に登録は出来ませんが、その価値は十分あるとの確信を得ることが出来ました。

31年度は東京の私達の会と水戸とが合同で偕楽園のある水戸市で開催されます。ご関心のある方は是非ご参加いただければ幸いです。また、開催間際にご案内させていただきます。

ソウルの「韓日中交流の夕べ」で与論島をPR

千波 裕美
(ヨロンパナウル王国観光大使)

1月5日、社団法人アジア文化経済振興院の主催で日中韓が集う「第25回ASIA文化経済人交流の夕べ」が韓国のソウルガーデンホテルで開催され、その祝賀公演の日本代表団として招かれて参加してきました。千波裕美舞踊団の面々で与論島をテーマにした私の持ち歌「母守唄～ヨロン恋しや」を歌い、沖縄の民族衣装で琉球舞踊を披露しました。

通訳をつけていただき、ステージでは3カ国語で日本歌手協会の歌手で、全国ふるさと大使連絡会議の理事、ヨロンパ

ナウル王国観光大使であることを説明してくださいました。

ステージでは大好評を博し、写真撮影をしていたいただき、私も日本屈指の透明な海と白いビーチの美しい与論島や出身地の茨城県銚田市をアピールしてきました。





8年を経た

「福島県・浜通りの現状と爛漫の桜を訪ねるツアー」

今年3月11日で東日本大震災から8年を迎えます。三陸を中心とする北東北では比較的、着実に復興が進んでいるようですが、原発事故に見舞われた福島県ではいまだに立ち入り禁止の地域が多く残る一方、避難解除の地域でも住民の帰還が進んでいません。その現状の一端を視察するツアーを福島県いわき市出身で金山町観光大使(福島県)の根本二郎氏が企画してくださり、新宿福島県人会のご協力を得て実施することとなりました。

避難解除されている富岡町、川内村など原発被災地周辺や本来なら大勢が訪れるはずの桜の名所などを巡ります。現地ではボランティアガイドさんの説明があるほか、川内村では遠藤雄幸村長も出迎えてくれる予定です。

当会では震災のあった2011年11月に大船渡市、釜石市、陸前高田市など三陸地方の被災地を訪問しており、今回が二度目の被災地訪問となります。この機会に是非、ご参加をお願いします。

<日程>

■4月6日(土) 朝8時、新宿駅西口交番前出発
富岡駅を中心に津波と原発被災地周辺を訪ねる
(現地ガイドつき)

12:30頃 夜ノ森の桜並木着(昼食)

16:00 川内村 小松屋旅館着

川内村営「かわうちの湯」入浴

18:00 懇親会(小松屋経営蕎麦処「天山」にて)

※有名な十割蕎麦の店

川内村長 遠藤雄幸氏歓迎挨拶(予定)

21:00 閉会

宿泊 小松屋旅館(双葉郡川内村字上川内字町分211)

Tel: 0240-38-2033

■7日(日) 桜の開花状況により行き先を決定

18:30頃 新宿着

◆費用 20,000円(2日目昼食は各自)

(宿泊費8,000円=懇親会・朝食費用含む)

交通費9,000円=レンタカー・運転手、高速料金、ガソリン代、等

雑費3,000円=車中飲み物・温泉代等、現地ガイド謝礼他)

◆募集 20名

◆使用車 レンタカー 28人乗り(プロのドライバー)

◆申込締切 2月28日(先着順)

歓迎!新しい会員のご紹介

2018年10月~12月入会(敬称略)

<個人会員>

向井 靖雄(田子町ふるさと大使)

【浅田和幸氏紹介】

全国ふるさと大使連絡会議の概要

(2018年9月末現在)

●設立年月 1996年8月8日

●目的 各地において制度化され、委嘱されている「ふるさと大使」および「委嘱者」相互の情報交換・交流・連携を図り、全国のふるさと・地域の活性化に貢献することを目的とし、その達成のために各種の事業を行うものとする

●会員の資格

①ふるさと大使

②ふるさと大使委嘱団体関係者

③ふるさとを愛する人々等

●会費 所定の会費(3,000円以上、団体会員は10,000円)もしくは相応の貢献寄与をしなければならない

2018年9月末現在の会員構成

大使会員	105名
団体会員	21団体
一般会員	141名
合計	267名

確認された大使制度

(2018年9月末現在)

県知事が委嘱	44団体	90制度
市長村長が委嘱	620団体	713制度
諸団体等の長が委嘱	145団体	148制度
合計	809団体	951制度

2019年度年会費納入のお願い

年会費は個人会員3,000円以上(3,000円以上大歓迎)、特別会員5,000円、団体会員は10,000円です。2018年度年会費の納入をよろしくお願いいたします。

*郵便振替

加入者名—全国ふるさと大使連絡会議 口座番号: 00190-7-149658

*郵便振込

店名—038 普通7211051 口座名: 全国ふるさと大使連絡会議

*銀行振込

三菱UFJ銀行 亀戸支店 普通0173146 口座名: 全国ふるさと大使連絡会議

編集後記

今回は昨秋の「ふるさと大使全国大会」の模様を特集しています。陣内先生の記念講演はイタリアと日本の各地方都市でこんなに素敵な取り組みをしているという例をたくさん紹介していただき、勇気をいただきました。パネル討論では、若者の移住が続く海士町の話が有名ですが、参加した皆さんもお話を伺って改めて感じられたようです。

年が明けたばかりですが、来年は当会創設25周年になります。その前段として今年の大会は新たな趣向も取り入れて魅力あるものにしたいと意気込んでいます。

この場で恐縮ですが、前号の「大使制度一覧」を一部修正します。東京都八丈町には観光協会が委嘱する「八丈島ふるさと観光大使」の他に町が委嘱する「自然とマナー。八丈島大使」が抜けていたほか、東京都大田区の「来〜る大田区大使」が重複していました。また「音楽大好き アコーディオンの世界」の記事中、一覧表にない三重県の「四日市ふるさと大使」の記述がありますが、これは市の委嘱ではなく、市民団体が古くから使用している呼称を市が容認しているものです。各地の大使制度の新設・改廃の情報がありましたら、ぜひお知らせください。

ふるさと大使かわら版 2019年1月25日—平成31年新春号— (通巻90号)

◇発行: 全国ふるさと大使連絡会議(代表=浅田和幸)

◇編集責任者: 浅田 和幸

◇事務局: 〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町36番3号N806

全国ふるさと大使連絡会議

TEL: 080-5002-6432 FAX: 03-5640-1433

Email: kasatora7@jcom.home.ne.jp